

| 道立文学館開館30周年 特別展 |

長谷川四郎と そのきょうだい



長谷川四郎『ダンダン 海に落ちた話』筑摩書房 1972年 函より(部分)

2025. 9月6日(土) → 11月9日(日)

〔休館日〕月曜日(ただし、9月15日、10月13日、11月3日は開館)、9月16日(火)、10月14日(火)は休館

〔開館時間〕9時30分～17時(入場は16時30分まで)

〔観覧料〕一般500(400)円、高大生250(200)円、中学生以下・65歳以上無料

* ()内は10名以上の団体料金 * 学校の教育活動の一環として観覧する小中高生と引率教員、障害者手帳などをお持ちの方と介添者などは観覧無料となります。他にファミリー割引など。詳細は文学館までお問い合わせください。

主催：北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社 後援：札幌市、札幌市教育委員会

| 中島公園 | HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4 tel.011(511)7655

<https://www.h-bungaku.or.jp/>



写真提供：長谷川光児氏

次男 長谷川 湊二郎

(1904~1988)

函館中学を卒業後、画家を目指して上京。当初は未来派など、モダニズムの影響を受けた作品を描くほか、「地味井平造」名で探偵小説を執筆、江戸川乱歩に高い評価を受けた。1931年から翌年にかけて渡仏し、その後は静謐で幻想的な独自の画風を貫いた。遅筆にして寡作、この美術団体にも属さずに制作を続け、伝説的なイメージを持つ画家として知られる。



長谷川湊二郎『アイスクリーム』
油彩・キャンパス 1983年
北海道立函館美術館蔵



写真提供：函館市文学館

四男 長谷川 四郎

(1909~1987)

函館中学を卒業。上京し、法政大学卒業後、南満洲鉄道株式会社、次いで満洲国協和会調査部に入る。1944年召集され、戦後はシベリアで5年間の抑留生活を送る。帰還後、それらの体験を反映した『シベリヤ物語』『鶴』を発表。新日本文学会では活躍しつつ、庶民の日常のなかに戦争を反響し、また詩情とユーモアを織り込んだ独自の世界を創り上げた。「デルスウ・ウザラ」をはじめ、様々な言語の作品の翻訳や、戯曲エッセイの分野でも活躍した。



長谷川四郎『ぼくの伯父さん』
青土社 1971年 当館蔵

長谷川四郎とそのきょうだい

長男 長谷川 海太郎

(1900~1935)



林不忘『丹下左膳』
新潮社 1935年 当館蔵

函館中学(現・函館中部高校)を退学し1920年に渡米。職を転々としながらアメリカを放浪した。帰国後、「谷議次」名で「めりけんじやぶ」ものと呼ばれるコントを発表する。さらに「牧逸馬」名でミステリーやメロドラマを、「林不忘」の名で剣豪もの「丹下左膳」を執筆。一人で三つのペンネームを駆使。35歳で亡くなるまでのわずか10年あまりで膨大な作品を残し、モンスターとあだ名された。



三男 長谷川 潜

(1906~1973)



長谷川潜 訳『偉大なる王』
文藝春秋社 1941年
函館市中央図書館蔵

函館中学を卒業後、漁船に乗り込みカムチャッカへと赴くなど、4年間船員として働く。その後、ロシア語を学んで満州に渡り、文学者として活躍。バイコフの『偉大なる王』の翻訳者として知られた。戦後も小説、詩、エッセイなどを執筆するほか、同郷の神彰らと共にドン・コサック合唱団を日本に招致するなど、ロシア芸術の紹介にも尽力した。



写真提供：函館市文学館

大正から昭和、函館出身の長谷川家の四人の兄弟―海太郎、湊二郎、潜、四郎は、各々文学や絵画などに独自の足跡を記しました。長兄・海太郎は林不忘、牧逸馬、谷議次の3つのペンネームで異なるジャンルでそれぞれ人気を博しました。次男・湊二郎は、静謐な画風の画家として評価される。一方、「地味井平造」の名で探偵小説を執筆しています。三男・潜は、満州時代に翻訳しベアストセラーになった動物小説「偉大なる王」(バイコフ著、1941年)があり、三人三様に活躍しました。

末弟・四郎(1909~87)は従軍と捕虜体験を下敷きにした小説『シベリヤ物語』(1951年)や『鶴』(1953年)で注目を集め、その後も淡々とした表現のなかに、時空を自在に往来しつつ詩情とユーモアを湛えた創作を続けました。

本展ではこの才能溢れる四兄弟、とりわけ四郎の仕事に注目し、その自由人の境地から生まれる文学の魅力に迫ります。

会期中のイベント

◆講演会 1 文学館まつりイベント

「詩人としての長谷川四郎」

講師：池澤夏樹(作家、当館前館長)

9月21日(日) 14:00~15:30 当館講堂(無料)

*要申込:8月29日(金) 9:00~ 電話受付(先着順、定員60名)

★オンライン配信

当館ホームページまたは右のQRコードからお申し込みください。

ページ内の「長谷川四郎とそのきょうだい」展をクリック!

受付:8月29日(金) 9:00~

配信期間:10月9日(木)12:00~11月9日(日)17:00



◆講演会 2

「『シベリヤ物語』と戦後文学の試み」

講師：前田和男(ノンフィクション作家)

10月19日(日) 14:00~15:30 当館講堂(無料)

*要申込:9月26日(金) 9:00~ 電話受付(先着順、定員60名)

◆「長谷川四郎 物語の声」 朗読とトーク

朗読・トーク:工藤正廣(当館館長)

10月11日(土) 14:00~15:30

当館講堂(無料)

朗読作品:長谷川四郎『敷章』(『シベリヤ物語』から)

*要申込:9月19日(金) 9:00~ 電話受付

(先着順、定員60名)

◆上映会

「丹下左膳余話 百万両の壺」

9月7日(日) 14:00~ 当館講堂(無料)

監督:山中貞雄/原作:林不忘

出演:大河内伝次郎ほか/1935年/92分/日活

*要申込:8月19日(火) 9:00~ 電話受付

(先着順、定員50名)

◆見どころ解説講座

9月14日(日)、9月28日(日)、10月4日(土)

いずれも 14:00~15:00

当館講堂(無料)

講師:当館学芸員

*要申込:8月27日(水) 9:00~ 電話受付
(先着順、定員各回60名)

◆ギャラリーツアー(展示解説)

9月27日(土)、10月18日(土)、10月25日(土)

いずれも 11:00~11:40

特別展示室

ご案内:当館学芸員

*予約不要。

観覧券をお求めの上、展示室入口へ
(当日先着10名程度)

●常設展のご案内/北海道の文学(通年開催)

北の大地に育まれてきた北海道の文学。自筆原稿や初版など貴重な資料を展示
観覧料:一般500(400)円、高大生250(200)円 中学生以下・65歳以上無料。

()内は10名以上の団体料金。高校生は土曜日無料。芸術週間(11月1日~7日)は無料。
*詳細はお問い合わせください。

*常設展文学館アーカイブ「函館の作家たち」

前期:9月2日(火)~9月18日(木)/後期:9月27日(土)~11月9日(日)

●次回特別展 シリーズ刊行20年「おぼけのマール ほんがだいすき!」

11月22日(土)~2026年1月18日(日)

2005年に『おぼけのマールとまるやまどうぶつえん』が刊行されてから20年。マールが北海道立文学館にやってくる!?

「中島公園」北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

●地下鉄南北線「中島公園駅」(出口③)または「幌平橋駅」(出口①)から徒歩6分 ●市電「中島公園通」から徒歩10分

●JRバス・中央バス「中島公園入口」から徒歩4分

【お問い合わせ】

tel.011-511-7655 fax.011-511-3266

https://www.h-bungaku.or.jp/

フェイスブック、X(旧ツイッター)でも情報発信中!

施設設置者:北海道教育委員会(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(代)011-231-4111)
指定管理者:公益財団法人北海道文学館



当館HP

